

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1階)

事業所番号	2773600313		
法人名	有限会社 采建設工業		
事業所名	グループホーム希望		
所在地	大阪府交野市東倉治3-8-11		
自己評価作成日	令和元年8月2日	評価結果市町村受理日	令和元年11月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和元年10月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境の中にある広く大きな敷地内で、四季折々の季節を感じていただけるよう、農園づくり(草花や野菜のお世話、収穫)や季節ごとの壁画づくりを利用者様とスタッフと一緒にやっている。また、季節の行事やレクレーションを行い利用者様どうしの交流や気分転換を図ったり、お楽しみ当番や外出支援などの個別処遇を行い、家庭的な雰囲気の中楽しい日常生活が送れるよう取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、緑一杯の山の景色や田園風景、及び季節を感じるコスモスの花や地域自慢の桜並木に囲まれた、静かな場所に位置している。理念「お年寄りの命を介護する」を玄関入り口に大きく掲示し、出入りする全ての人々が共有出来る。管理者・ホーム長・主任は役割分担を決め、全職員との意思疎通を図り、一緒になって笑顔でケアサービスの向上に取り組んでいる。最近入居した利用者が、数か月で大幅に身体状況が改善し、「ここが一番」と毎日笑顔で、食事や好きな読書を楽しんでいる姿があり、家族・職員の大きな喜びや励みとなっている。家族の了解の下、ホームページに毎月の行事や利用者の活動状況のブログを掲載し、家族の楽しみとなっている。地域密着型の意義を理解している法人代表者も、定期的に事業所を訪問している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『お年寄りの命を介護する』を理念とし玄関の入口に大きく掲示し、日常的に理念を確認・共有するようにしている。	理念は、玄関入り口に分かり易く大きく掲示し、職員会議でも話し合っ、全職員で共有している。理念に沿って、利用者一人ひとりを尊重し、人生全て(命)を支えるように、日々職員全員で実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	地域の自治会に入会し清掃活動などに参加している。その他、七夕行事やイルミネーションなどの実施、中学生の職業体験やボランティアの受け入れなど地域の方々との交流を実施している。	事業所は地域密着型の意義を理解し、自治会に加入し、地域の清掃活動への参加や、中学生の職業体験及びボランティアの受け入れ等を行っている。事業所の恒例の行事である七夕祭りや季節のイルミネーションの飾りを行い、地域住民との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に関しての問い合わせや見学もあり、随時専門性を活かした説明を行っている。市における認知症サポーター事業にも参加し認知症の方の理解や支援の方法を伝えるようにしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で頂いたご意見を職員で再度話し合い、サービスの質の向上に活かすように努めている。	利用者・家族・社会福祉協議会・地域生活支援コーディネーター(地域包括支援センター)・地域住民代表に参加を呼びかけ、年6回会議を開催している。会議では、事業所の活動報告だけでなく、参加者の助言や要望を聞いて運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム協議会や介護相談員連絡会に参加し、様々なテーマでの意見交換を行い協力関係の構築に取り組んでいる。	分からないことがあれば市の担当者に電話で問い合わせ、助言を得ている。市に出向いた時は、事業所の現状を伝えるように努めている。定期的に参加する市のグループホーム協議会に出席し、交流を図っている。介護相談員も月1回来訪し、色々話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	『身体拘束ゼロ宣言』の研修への参加や、内部研修を行い拘束という行為を正しく理解するように事業所全体で努めている。	身体拘束適正化委員会は、運営推進会議と一体的に開催している。事業所は「身体拘束ゼロの手引き」のマニュアルを整備し、定期的に研修を実施して職員に周知している。現状、身体拘束は行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加し、事業所内の全職員にも周知し毎月の職員会議や日常の業務の中でお互いチェックしあい気を付けるよう注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市が開催している成年後見人制度についての研修に参加し、今後も必要に応じて活用していけるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書の内容を説明し質問などには全て答えるようにしている。解約時には家族等に十分な説明を行い納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、月1回介護相談員を受け入れ利用者や家族の意見を反映できるようにしている。家族連絡票などで家族との連絡や報告を行ったり不満や悩みを傾聴しサービスの向上につなげている。	家族との面会時には、意見や要望を聞くように努めている。週1回訪問して、優しく食事支援等を行っている家族もいる。法人のホームページのブログに、家族の了解の下で、行事や活動で利用者が楽しんでいる姿を掲載し、家族との会話の促進を図っている。	家族は、事業所に意見や要望があっても言い難いものである。訪問が少ない家族には、現状の利用者の暮らしぶりの状況を送付する等、家族とのより密な連携を図り、家族が意見等を言い易い環境を作って、運営に活かすことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議において、業務・ケアに関する検討対策を行っている。また、普段から職員との意見交換を行い、運営に反映させている。	職員会議を毎月開催し、ケアサービスだけでなく、運営に関する意見も話し合って反映している。管理者・ホーム長・主任は役割分担を決め、職員との意思疎通が良く、皆が言い易い環境となっている。新入職員にはユマニチュード(見る・話しかける・触れる・立つを柱とする認知症ケア法)教育を行い、認知症に対する接し方の共有を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者と職員がコミュニケーションを取ることで職員個々の能力を認め、お互いに向上心を持って働けるよう関係構築に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月内部研修を行い、個々のスキルアップに努めている。また、現場で起こる様々な事に関しても皆で対応していけるようにトレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会やグループホーム交流会での他施設との情報交換や、見学会などを通じて良い所を吸収しサービスの向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	体験入所や施設見学などを活用していただき信頼関係の構築に努め、本人の思いや生活の様子を把握するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話相談や見学時等でもご家族の思いを聞き、利用に至るまでには十分に話し合う機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状況によって他のサービスの方が適していると思うときは、十分な説明を行い他施設への利用も支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりの状況を見極め出来る事をしていただいたり、職員と一緒にお手伝いをしていただくなど暮らしを共にする者同士の関係を構築するよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話の際には利用者様の様子や変化等、近況を報告している。また、ご家族様から情報提供していただくなどの協力を得ながら支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙のやり取りのお手伝いをし、その関係が継続できるよう支援している。また、年賀状・暑中見舞いを手作りを出している。	今までの知人等が継続的に訪問しており、事業所は歓迎し、途切れないように支援している。馴染みの場所を訪問する支援も、家族の協力を得て行っている。利用者が年賀状や暑中見舞いを手作り出すのを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わり合えるようにレクリエーションや夜の集いなどの場を提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて家族の相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向を表現できるような関わりを持つようにしている。また、ご家族から情報をいただき希望や意向を把握するようにしている。	入居時に、利用者の生活歴・趣味・嗜好等を出来るだけ聞き、それに沿った支援を行っている。入居時より数か月で身体状況が大幅に改善した利用者が、読書を毎日楽しんでいる等、利用者一人ひとりを尊重したケアサービスを実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から、入所に至るまでの生活歴や趣味、嗜好等、暮らし方についてのお話を十分に伺い、職員間で共有し介護に活かすようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の介護記録や申し送りを通して把握するようにしている。また、毎月の職員会議の中で一人ひとりの現状を把握するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の課題分析や月1回のモニタリング、職員の気づき情報を集約し、カンファレンスを経て介護計画を作成している。	支援経過を毎日記録し、利用者の変化等を把握するようにしている。毎月モニタリングを行い、サービス担当者会議を開催し、現状に合った介護計画を作成している。計画の見直しは定期的実施しているが、利用者の急変や入退院時には、即変更するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の日々の記録や特記事項を詳しく記録に残し、介護計画の見直しに活かしている。計画内容の変更やその後の評価等も記録に残していくように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて柔軟に対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	デイケアの利用や地域のボランティアの活用など、本人が楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	往診を受けており、入居時に説明し承諾が得られた場合は主治医を変更していただいている。他科受診の場合にはご家族と医師と相談し、同意を得て支援を行っている。	家族の了解の下、協力医療機関の内科医の月2回の往診を受けている。歯科医は歯科衛生士とペアで週1回訪問し、口腔ケアや必要に応じた治療をしている。他の専門医の受診は、家族と相談して出来るだけ支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診を受けているかかりつけ医に24時間体制で対応、相談できる体制を取っており、その都度適切な受診が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合はご家族様と連絡を取り合い定期的に面会に行き、その際病院関係者に現状を聞くなど早期退院に向けての情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の場合には、入居時にも説明を行っているが知見の深い医療関係者と連携を図りながら、改めてご家族様とその都度相談しながら方向性を決めるように取り組んでいる。	協力医療機関と24時間の医療連携体制を構築して、今まで数多くの看取り経験を積み重ねており、今年度も2名の看取り経験をしている。利用者が重度化した場合は、家族と繰り返し相談しながら、利用者にとってより良い最期が迎えられようように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを活用し、全職員が対応できるように定期的な訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防本部による防火訓練を受けており、火災や地震、水害に関する防災マニュアルを作成している。地域の方々には緊急時ご協力お願いシートを作成し、協力を依頼している。	地震・水害・火災等の災害時の防災マニュアルを整備している。年2回消防避難訓練を実施し、内1回は消防署の指導を受けている。夜間を想定した訓練も実施している。備蓄品は、飲料水や食糧品だけでなく、備品も整備している。地域の情報を知っている法人代表者が近隣に住んでおり、心強い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的研修を実施しサービスの知識と技術を身に付けるよう取り組み、人生の先輩として敬う心で接するように指導、言葉遣いは職員同士でチェックしあうようにしている。	接遇研修を定期的実施して、職員は接遇の知識と技術を身に付けている。利用者の尊厳を損ねる言葉遣いに気付いた時は、職員が互いに注意し合うようにしている。利用者一人ひとりを尊重し、職員皆が一緒になって、「命を介護する」という理念を実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で選択肢を増やし、決め事を実行するのではなく、本人の決定に基づいた対応を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの一日の生活の流れに沿いながら、一人ひとりの生活のペースを大切に過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケアの一環として取り組んでおり、出かける際や行事の時などには衣類の選択や美容などのお手伝いを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はおいしく楽しく食べることを考え充実感が持てるように支援し、盛り付け、配膳、片付けなど出来ることを見極め、出来る範囲で行っていただいている。	外部業者による献立・食材調達以外に、自主でも買い物に出掛けて食材を調達しており、職員が全て手作りし、出来立てを提供している。利用者は出来る範囲で参加し、匂いや音を聞きながら楽しんでいる。定期的に外食に出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な方にはチェック表を活用し、目標の食事量、水分量を決めて、バランスがとれるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔内をチェックするように努めており、定期的な訪問歯科受診を受け、個々に応じたケアを指導していただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿便チェック表を活用し、排泄パターンを把握することにより、トイレ誘導を行い自立に向けた支援を行っている。	職員は、利用者の排せつパターンを把握し、言葉掛けに気をつけながらトイレ誘導をしている。日中は出来るだけオムツをしないケアサービスを心掛け、自立排泄につなげている。適切な排泄に向けて、食事内容や運動及び水分補給を大切に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	スムーズな排便を促せるように運動等個々に応じた予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	原則として週2回の入浴日を決めているが、利用者の希望に沿って柔軟に対応している。	週2回は入浴が出来るように支援している。嫌がる利用者には、時間を置いたり工夫して入浴につなげている。回数や時間的な希望にも柔軟に対応している。個浴の浴槽で、重度の人も2人掛かりで支援し、ゆず湯やしょうぶ湯等で楽しい入浴も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングで過ごされることが多いが、昼寝の時間を取るようにし、安心して休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を業務日誌に綴じ、個々の薬剤情報を確認し理解することに努めている。必ず目を通しサインするよう徹底し、薬変更時には個人記録・お薬手帳に記載し、その後の経過等を観察するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人にあった『お楽しみ当番』を設け、楽しみや気分転換になるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩にはいつでも行けるように努めており、普段行けないような場所は情報収集を行い、相談しながら個別処遇として行っている。	日常的に買い物や散歩で外出している。重度の利用者も多いが、日光浴等を大切にして支援している。定期的なイベントに外出したり、デイケアセンターに交代で出掛け、季節を感じたり、地域住民との交流を行って楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症状による入居者同士のトラブルに繋がるため、お金はホームで管理している。希望があればスタッフ付き添いの上、お金を所持していただき使えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はかけたい時にかけていただき、手紙のやりとりも自由にしていただけるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節の壁画や創作物を掲示し、玄関や食堂にはお花を飾ったりして季節感を出し、心が和むように工夫している。	居間兼食堂・トイレ・浴室・廊下は広く、清潔に保たれている。居間には観葉植物や生け花を置き、壁には季節を感じる貼り絵やイベント時の写真を飾っている。昼食時は利用者の笑顔が一杯で、「ここが一番」と喜んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファを配置し、好きな時に思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の写真など思い出の品を置くようにしている。入居時に使い慣れた家具や馴染みの品を持ってきていただくように説明している。	事業所は、クローゼットと冷暖房設備を用意している。利用者は、思い思いの家具や置物及びテレビ等を持ち込み、今までの生活と変わらない居室となるよう支援している。壁には家族の写真等や、誕生日祝いの習字を飾り、居心地良く過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	標識等は分かりやすく大きくし、必要な所には手すりを設置し、自分で移動できるように配慮している。		